さつまファインウッド　出荷式ご挨拶

本日はお忙しい中、株式会社さつまファインウッドの出荷式に、かくも多数の皆様にご臨席を賜り誠にありがとうございます。

私は代表取締役社長　林　雅文でございます。

出荷式に先立ちましてご臨席を賜りました皆様に「感謝の意」を表すとともに、一言ご挨拶を申し上げます。

さつまファインウッドは、かごしま材 JAS 製品流通加工施設として、鹿児島県木材組合連合会様、株式会社山佐木材様、株式会社伊万里木材市場の出資により平成 25 年 11 月 22 日に設立いたしました。

工場は平成 27 年 3 月に完成し、その後 JAS 認定工場の申請を粛々と進め、平成 27 年 10 月、JAS 工場認定をいただき、今後は認定工場として活動してまいります。本日はいよいよ本格な材の出荷が始まることを記念しまして、皆さまへの感謝に気持ちとこの事業に対する万感の思いを込め出荷式を執り行わさせていただきます。

この事業は、計画当初より国、県、市の行政の皆様はもとより、事業の立上げにご尽力をいただきました鹿児島県木材組合連合会様、かごしま材利用推進協議会の皆様、原木供給に多大なお力をいただいています鹿児島県森林組合連合会様、また建設工事、設備工事に携わっていただきました建設、機械設備業者の皆様、そして現在、県内外から 2×4 材の供給を行っていただいている協力製材工場の皆様などたくさんの関係者のご支援、ご協力のもと、ありがたく、本日の出荷式を迎えることができました。

衷心より深く感謝申しあげます。

「誠にありがとうございました」

さて、昨今の木材需要は、大きな変化が現れました。

元来、木材需要といえば住宅着工数と密接な関係がありました。今日高齢化社会、少子化という社会変化が訪れ、住宅着工数の大幅な伸びが期待できなくなりました。このことはとりもなおさず、木材の需要量に大きく影響し、今後着工数の減少に伴い木材の使用量も大幅に減少することが予測されます。

しかしながら最新の木材需要数値は、まだ以前の数値には達していませんが、徐々に需要量は回復しています。とりわけ国産材需要量は平成 17 年度の 17 百万m3 を底に平成 26 年度は 23 百万m3 と拡大し、国産材自給率もついに 30%台を回復してまいりました。このことは木材需要が住宅だけではない、新たな分野の需要開拓が進んでいることを意味しています。

特にこれからは、新しい、かつ大きな需要が見込まれる CLT、JAS の規格改定による国産材 2×4 材の普及、バイオマス発電燃料としての未利用材、低質材の利用拡大、東南アジアに向けた国産材輸出量の増加など、大幅な需要が期待できます。

一方森林に目を移すと成熟した森林が日本全国に広がり、「育てる森林から活用する森林」へと大きく方向転換を迫られています。

そうした新しい変化が訪れる中、弊社、「さつまファインウッド」は開設いたしました。

さつまファインウッドの主力生産製品は国産材 2×4 材です。先にもご案内しましたが、JAS の規定改正により国産材でもその使用が幅広く認められるようになり、国産材の新たな需要が拡大します。

さつまファインウッドは自らが核となり、この需要を一過性のものではなく、継続的、安定的に需要者に提供できるような取り組みにすべく、需要に基づくサプライチェーンを構築しました。つまり林業、木材産業の川上～川中～川下のサプライヤーが需要に対し一致団結し、新しい木材需要に地域の業界を挙げて対応していくという、これまでにない木材生産流通システムです。

これにより木材製品の安定供給はもちろんのこと、川上、川中、川下のサプライヤーが与えられた役割、責任を果たすことにより、各々の採算性の向上、強いては川上への利益還元など林業、木材産業への大きな貢献が可能です。

また製品の品質面におきましても外材に負けない高品質な製品が出来上がったと自負しております。

本日、さつまファインウッドはこのような大きな志をもってスタートいたします。

皆様におかれましてはこれまで以上のご指導、ご鞭撻を賜りますよう従業員一同、心からお願い申しあげます。

最後になりますが本日ご臨席を賜りました皆様のますますのご繁栄を祈念申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

平成 27 年 11 月 20 日

株式会社　さつまファインウッド

代表取締役　林　雅文